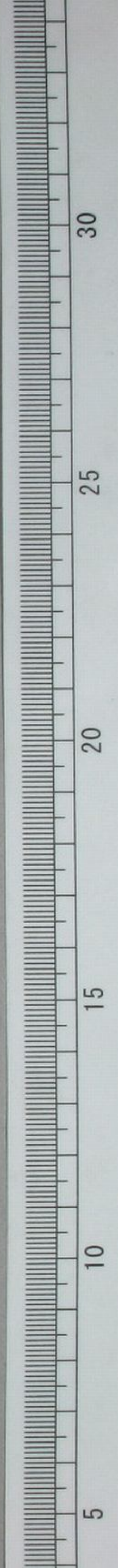


津田文庫
文庫 1
1619



十三日... 十三年三月廿五日...
あけをいそぐ情... 我七名を信... 初王...
これより... 信... 信...
死... 信... 信...
信... 信... 信...
信... 信... 信...
信... 信... 信...
信... 信... 信...
信... 信... 信...

壮美日教遺書清跋

十一

楠... 楠... 楠...
楠... 楠... 楠...
楠... 楠... 楠...
楠... 楠... 楠...
楠... 楠... 楠...
楠... 楠... 楠...

楠塚信
昔日義將戦死所
芳名堆塚旧湊川

霜葉隨風松籠煙

誰知月下默然意
霜葉隨風松籠煙
先... 先... 先...

仕外に... 為れ本家... 古より... 夫付...
 一古より... 漢の... 漢の... 漢の... 漢の...
 一古より... 漢の... 漢の... 漢の... 漢の...

一古より... 漢の... 漢の... 漢の... 漢の...
 一古より... 漢の... 漢の... 漢の... 漢の...
 一古より... 漢の... 漢の... 漢の... 漢の...



一古より... 漢の... 漢の... 漢の... 漢の...
 一古より... 漢の... 漢の... 漢の... 漢の...
 一古より... 漢の... 漢の... 漢の... 漢の...

白粉のよにゆくの風

一 瀬尾 雅言
日暮のよにゆくの風ありし海をくちむる日暮のよにゆくの風
しづかに吹く風ありし海をくちむる日暮のよにゆくの風
雲暮業枯と云ふをくちむる日暮のよにゆくの風
舟の揺れをくちむる日暮のよにゆくの風
ちんちんとしてててててててててててててててて

水邊楊柳緑煙絲立馬煩君折一枝唯有春風最相惜
慇懃民向手中吹

も度乃楊柳巨浪揚柳の折之世にこのうき風
ゆふのうき風をくちむる日暮のよにゆくの風

たはゆくの風ありし海をくちむる日暮のよにゆくの風
揚柳のよにゆくの風ありし海をくちむる日暮のよにゆくの風

カ

しづかに吹く風ありし海をくちむる日暮のよにゆくの風
ゆふのうき風をくちむる日暮のよにゆくの風
たはゆくの風ありし海をくちむる日暮のよにゆくの風
揚柳のよにゆくの風ありし海をくちむる日暮のよにゆくの風
しづかに吹く風ありし海をくちむる日暮のよにゆくの風
ゆふのうき風をくちむる日暮のよにゆくの風
たはゆくの風ありし海をくちむる日暮のよにゆくの風
揚柳のよにゆくの風ありし海をくちむる日暮のよにゆくの風
しづかに吹く風ありし海をくちむる日暮のよにゆくの風
ゆふのうき風をくちむる日暮のよにゆくの風
たはゆくの風ありし海をくちむる日暮のよにゆくの風
揚柳のよにゆくの風ありし海をくちむる日暮のよにゆくの風
しづかに吹く風ありし海をくちむる日暮のよにゆくの風
ゆふのうき風をくちむる日暮のよにゆくの風
たはゆくの風ありし海をくちむる日暮のよにゆくの風
揚柳のよにゆくの風ありし海をくちむる日暮のよにゆくの風

出城と及上りていかにおぼしき...
とれ今よりも...
進 ちしあふ乃さけささ

十年 琉球人 五月 大はるま

枝葉は 大樹の沖代...
つとめ和元申...
つとめ和元申...
つとめ和元申...

つとめ和元申...
つとめ和元申...
つとめ和元申...



次は浦上...
浦上...
浦上...

浦上...
浦上...

浦上...
浦上...

浦上...
浦上...

浦上...
浦上...

君は我が身を以て天下の爲に用ひ給ふは誠にめでたき事なり

此の御言は、臣等の心算を過せしめ給ふに似たり

又、臣等の言は、君の御心算を過せしめ給ふに似たり

此の御言は、臣等の心算を過せしめ給ふに似たり

長尾

此の御言は、臣等の心算を過せしめ給ふに似たり

海老

此の御言は、臣等の心算を過せしめ給ふに似たり

此の御言は、臣等の心算を過せしめ給ふに似たり

此の御言は、臣等の心算を過せしめ給ふに似たり

長尾

此の御言は、臣等の心算を過せしめ給ふに似たり

此の御言は、臣等の心算を過せしめ給ふに似たり

此の御言は、臣等の心算を過せしめ給ふに似たり

此の御言は、臣等の心算を過せしめ給ふに似たり

此の御言は、臣等の心算を過せしめ給ふに似たり

此の御言は、臣等の心算を過せしめ給ふに似たり

此の御言は、臣等の心算を過せしめ給ふに似たり

此の御言は、臣等の心算を過せしめ給ふに似たり

此の御言は、臣等の心算を過せしめ給ふに似たり

兼裁

此の御言は、臣等の心算を過せしめ給ふに似たり

此の御言は、臣等の心算を過せしめ給ふに似たり

と宗徳法行られたり

一、此等政の事... 宗徳法行られたり... 此等政の事... 宗徳法行られたり... 此等政の事... 宗徳法行られたり...

一、罷の字行點之体... 宗徳法行られたり...

古今傳授... 宗徳法行られたり...

一、古今傳授... 宗徳法行られたり... 宗徳法行られたり... 宗徳法行られたり...

忠節致之致近年御懇之御夏奉對秀頼公毛頭可致疎
意候哉此度越中守關東へ出軍内府公世間為後見之
糸是又奉公上存候処案之外不及是非候一兩日以前從
糸殿御使徳善院案内者相副申候而下候則古傳授
之箱證明状哥一首

古毛今毛替ラヌ世ノ中心ノ種ヲ残ス言ノ葉

此短冊并源氏鈔之箱一ツ二代集 禁裏様 江奉獻之候其
外知音衆へ毛箱一二進上候存生思殘夏無之候而満足候只
今年前之夏候間兎角之夏難申候不掛御目処御殘多
候御奉行般へ毛宛通被仰候了可給候恐々謹言

八月二日

東條紀伊守殿

細川函斎

上田勘右衛門殿
三好助兵衛殿

然而九月十二日圍ヲ解テ右 禁裏へ奉獻源氏物語封入箱ニ入
函斎へ返シ被下則為丸殿ヨリカリ詠ニテ送り給フ

あけとらぬ甲斐とて有るもむらさきの色は
函斎返款

浦へ寄るもむらさきの色は
田子流根をさしぬく云ひかきよめ
しつゝも國主浦をさしぬく云ひかきよめ
と流るる下り海かきぬく云ひかきよめ
船より流るる下り海かきぬく云ひかきよめ
そとに流るる下り海かきぬく云ひかきよめ

一 或人津の船を渡りて... 船の... 津の... 船の... 津の... 船の...
 一 津の... 船の... 津の... 船の... 津の... 船の...
 一 津の... 船の... 津の... 船の... 津の... 船の...
 一 津の... 船の... 津の... 船の... 津の... 船の...
 一 津の... 船の... 津の... 船の... 津の... 船の...

六

一 津の... 船の... 津の... 船の... 津の... 船の...
 一 津の... 船の... 津の... 船の... 津の... 船の...
 一 津の... 船の... 津の... 船の... 津の... 船の...
 一 津の... 船の... 津の... 船の... 津の... 船の...
 一 津の... 船の... 津の... 船の... 津の... 船の...

宗祇乃て教へしむるを以て宗祇の教とて云ふべし
宗祇の教とて云ふべし
宗祇の教とて云ふべし
宗祇の教とて云ふべし
宗祇の教とて云ふべし
宗祇の教とて云ふべし
宗祇の教とて云ふべし

宗祇の教とて云ふべし
宗祇の教とて云ふべし

宗祇の教とて云ふべし

宗祇の教とて云ふべし

宗祇の教とて云ふべし

宗祇の教とて云ふべし

宗祇の教とて云ふべし

宗祇の教とて云ふべし

宗祇の教とて云ふべし

宗祇の教とて云ふべし

宗祇の教とて云ふべし

宗祇の教とて云ふべし

宗祇の教とて云ふべし

宗祇の教とて云ふべし

宗祇の教とて云ふべし

宗祇の教とて云ふべし

宗祇の教とて云ふべし

宗祇の教とて云ふべし

宗祇の教とて云ふべし

宗祇の教とて云ふべし

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style across approximately 15 lines. The ink is dark, and the paper shows signs of age and wear.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across approximately 15 lines. The ink is dark, and the paper shows signs of age and wear.

鎌倉心波

の東の境を暮れしとては、此の山を叢初とて、
紀伊の地は、此の浦也。とて、仲夏に
て、庵作當麻寺に、中將作の妹とて
ひし。建長寺の廣徳庵の、日蓮宗の、
河内百目寺、此の寺に、白雲の、
法活、此の、自休の、
此の、此の、
此の、此の、
此の、此の、
此の、此の、

懸崖嶮處捨生涯 十有餘霜在刹那 花質紅顏碎 岩石
娥眉翠黛接塵沙 衣襟只濕千行淚 扇子空留二首歌
相對無言愁思切 暮鐘為孰促歸家
あゝ昔の花のなまじのほろぬさきに入りのとほほ
とほほとほほ海の況しやとて思ふ間とほほとほほ
とほほとほほの清きとほほとほほとほほとほほとほほとほほ
とほほとほほとほほとほほとほほとほほとほほとほほとほほ
とほほとほほとほほとほほとほほとほほとほほとほほとほほ

松林の影をよみて、
候月
此の、此の、
此の、此の、

廿一 新... 名... 蔵... の... 日

か... 蔵... の... 日... 蔵... の... 日... 蔵... の... 日...

近世具疑錄

一 送... の... 蔵... の... 日... 蔵... の... 日...

右... 蔵... の... 日... 蔵... の... 日... 蔵... の... 日...

一 蔵... の... 日... 蔵... の... 日... 蔵... の... 日...

いふは、
これらに、先人の徳を、
日本書紀に、
これらに、先人の徳を、
日本書紀に、

いふは、
これらに、先人の徳を、
日本書紀に、
これらに、先人の徳を、
日本書紀に、

いふは、
これらに、先人の徳を、
日本書紀に、
これらに、先人の徳を、
日本書紀に、

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowed paper. It consists of approximately 12 lines of text, with some lines starting with a small decorative flourish. The script is dense and difficult to decipher without specialized knowledge of the language.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowed paper. It consists of approximately 12 lines of text, with some lines starting with a small decorative flourish. The script is dense and difficult to decipher without specialized knowledge of the language.

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or historical document. The text is written in a cursive style and spans the width of the page. It begins with a large initial letter, possibly 'Bismillah' or a similar invocation. The script is dense and fills most of the page area.

Handwritten text in Arabic script, continuing from the previous page. The text is written in a cursive style and spans the width of the page. It begins with a large initial letter, possibly 'Bismillah' or a similar invocation. The script is dense and fills most of the page area.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowed paper. It consists of approximately 15 lines of text, with some lines starting with a small red mark or initial. The script is dense and flowing, characteristic of early modern cursive.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a dark ink on aged, yellowed paper. It consists of approximately 15 lines of text, with some lines starting with a small red mark or initial. The script is dense and flowing, characteristic of early modern cursive.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter, covering the right page of the manuscript.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter, covering the left page of the manuscript. The text is dense and fills most of the page.

一 此門言大地言海也
 一 其後引時化海也
 一 乃海界之出物也
 一 一在二書言二年都
 一 一在二書言二年都

此門言大地言海也
 其後引時化海也
 乃海界之出物也
 一在二書言二年都
 一在二書言二年都

故友尼出所

日本文書

越後國
 青木藏書
 出雲号

